

特集

補助犬とは

身体障害者補助犬(以下「補助犬」)は目や耳、手足に障害のある方をサポートする「盲導犬」・「聴導犬」・「介助犬」(注)のこと。障害のある方が、自立と社会参加をするための大切なパートナーです。

身体障害者補助犬法に基づき、必要な訓練を受けています。また、ユーザーは補助犬の衛生・行動管理をしっかりと行っているため、社会のマナーを守り、清潔にしています。

(注) **盲導犬**…見えない、見えにくい人が安全に歩けるようにサポートします。白又は黄色のハーネス(胴輪)をつけていて、「盲導犬」と表示しています。

聴導犬…聞こえない、聞こえにくい人に必要な生活音(玄関のチャイム音やFAX等着信音など)を知らせます。「聴導犬」と表示しています。

介助犬…手や足に障害のある人の日常生活動作をサポートします。「介助犬」と表示しています。

補助犬の受け入れにご理解を!

補助犬は「身体障害者補助犬法」に基づいて認定されており、障害のある方がともに社会参加を促進することを目的として活躍しています。補助犬は、様々な場所で受け入れるよう義務づけられており、公共施設や交通機関を始め、医療機関も例外ではありません。

補助犬ユーザーは、責任をもって補助犬の行動を管理し、補助犬の体を清潔に保ち、健康に気を配っています。

○補助犬は、ユーザーが指示した時に、指示した場所でしか排泄しないように訓練されています。

○補助犬は、ユーザーの管理のもとで待機するよう訓練されています。

・交通機関(電車・バス・タクシー)…シートを汚さないように足もとで静かに待機します。

・公共施設(商業施設・飲食店・病院・ホテル)…動線を確認し、大人しくテーブルの下や椅子の側などで待機します。

○障害者差別解消法について

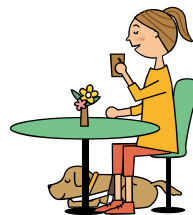
障害を理由とする差別の解消を推進

・「不当な差別的取り扱いの禁止」とは

障害があるということだけで、正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような行為は禁止されています。

・「合理的配慮」とは

障害のある方などから何らかの配慮を求める意思の表示があった場合には、負担になりすぎない範囲で、社会的障壁を取り除くために必要な配慮を行うものです。



補助犬&ユーザーへの対応

○補助犬への接し方

- ・食べ物を与えないようにしましょう。
- ・気を引く行為は避けましょう。
- ・温かく見守りましょう。

○補助犬が通路をふさいだり、周りのにおいを嗅ぎ回るなど、何か困った行動をしている場合は、そのことを補助犬ユーザーにはっきり伝えてください。

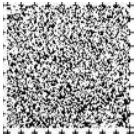
○補助犬を同伴していても、ユーザーへの援助が必要な場合があります。補助犬ユーザーが困っている様子を見かけたら、声をかけたり、筆談をするなどしてコミュニケーションを取ってください。



身体障害者補助犬



をもっと知ってください



盲導犬使用者インタビュー

盲導犬は私たちにとって体の一部。
盲導犬に対する理解がもっと広まることを願っています

アイメイト鹿児島 会長 **春田 ゆかりさん**



私と盲導犬との初めての出会いは、盲学校で鍼灸を学んでいた頃になります。もともと犬への恐怖心はありましたが、恩師の紹介で盲導犬と一緒に颯爽と歩いている方を見て、あんな風になりたい、と想像したことを覚えています。盲学校を卒業し、病院に勤務していたある日、通勤途中に電柱にぶつかって入院してしまいました。この怪我をきっかけに、盲導犬への思いを強くし、アイメイト協会に申請をしたのが平成10年のことです。県とアイメイト協会の方が面接に来て、我が家が盲導犬と暮らせるかの環境面や、エサやワクチンにかかる経済的な面などの調査がありました。あまり知られていません

が、自分のことを自分でできる人でなければ、盲導犬と一緒に暮らすことはできません。それから盲導犬給付決定通知が届き、平成11年に東京で盲導犬との4週間の訓練が始まりました。いろいろな場面を想定した訓練を受けた後、東京・銀座で行われた試験に合格。アイメイト協会から羽田空港を経て、鹿児島空港までの道のりを盲導犬と一緒に帰ってきました。

都会などに比べ鹿児島で盲導犬が少ない理由の一つとして、「いろいろな場所やお店などで入店を断られて行動範囲が狭まるから」という意見があります。盲導犬とヘルパーをセットにして使うこともできるので、視覚障害者自身にも盲導犬にまつわるルールをもっと知ってほしいですね。

また、施設や病院などで活躍するセラピードッグが話題になっていますが、鹿児島ではまだ盲導犬と一緒に入館することができないのが現状です。アシスタントを介して、いつか一緒に仕事に行ける日を期待しています。

アイメイト鹿児島では、学校や施設での講演をはじめ、地域のイベントなどにも参加、カヌー体験など会員同士のレクリエーションも行っています。私自身盲導犬がいることで、いろいろな方との出会いが増えたことはもちろん、行動範囲も広がって旅行にも行けるようになりました。今は盲導犬と一緒に外国旅行をするのが夢です。盲導犬は私たちにとって体の一部。鹿児島でも盲導犬に対する理解がもっと広まることを願っています。

ことば

「公益財団法人アイメイト協会」とは

創設者の塩屋賢一により1957年に国産盲導犬第一号ペアを送り出す。アイメイトとは同協会出身の盲導犬のことで、アイは「I=私」「Eye=目」「愛=Love」、「私の愛する目の仲間」を意味する。「全く視力がない方が、白杖や同伴者を伴うことなく、ご本人と犬だけで単独歩行できる」ことを目指し、視覚障害者が抱える問題を解決するためのサポートを行う。



(一社) 鹿児島県視覚障害者団体連合会事務局

TEL 099-228-6712

アイメイト鹿児島事務局

TEL 090-6778-2614

